

情報システムの重要性と 情報システム部門の役割 システム的な要因による課題

～情報システム部門の存在意義の考察～

第5分科会 TeamA

導入

- 大学を取り巻く環境が日々変化する中、大学運営も変化を求められて久しい
- 情報システムの最適な環境なくして、教育研究等の大学運営は機能しないと言われている
- 情報システムの最適な環境の構築のためには、情報システム部門の役割もまた、再定義することが必要である

1

現状の情報システム部門は…

- 大学運営に主体的に関わっていく体制が整っていない
 - 学内のシステムの全体像を把握しているとは言えない
(別部門のシステム)
 - 別部門の業務フローの把握までいらず、明確にニーズがつかむことが困難
(教務・就職・図書・会計・人事……)
 - 一方で、蓄積されたノウハウを活かしきれていない

2

情報システム部門の新たな 役割として…

- ① 大学全体の情報システムの
グラウンドデザイン
- ② 教育に関する提言

3

①大学全体の情報システムの グラウンドデザイン

問題点

- 各部門で独自にシステムを構築している
- 業務のすべてを把握(経験)できない
- 情報資産の無駄遣いになっている
- マスターデータが散在している

4

①大学全体の情報システムの グラウンドデザイン

解決案

- 情報システム部門がイニシアチブを持ち、他部署との共同によってグラウンドデザインを描く

取り組み

- 大学の中長期的な経営ビジョンにグラウンドデザインを組み込んでもらう
[データ分析・評価 → マネジメントの視点]

5

②教育に関する提言

問題点

- 蓄積されたノウハウが発信されない
 - 学生との対応で集約された情報
 - 業務で得た知識
- 学生に必要な情報知識が明確ではない
 - 基礎的な知識
 - 各学科で必要な知識
- 変化する時代に合わせた情報教育への対応
 - ex) デジタルネイティブへの準備

6

②教育に関する提言

解決案

- ノウハウを活かした情報教育計画の実施
 - 先を見越したアドバイス
 - ニーズの発掘
 - 授業内外での教育の実施

取り組み

- 教職共働による情報教育計画の立案
[授業への参画/データ分析(授業評価)]

7

まとめ

- 大学の運営には、情報システムの活用がますます重要となる。
- 従来の情報システム部門の職務の枠にとられず、主体的に取り組む必要がある。
- 「部門最適」から「全体最適」へ導くコンサルタント的役割として、情報システム部門が必要不可欠な存在となる。

8

これらの取り組みを行う事が、
これからの情報システム部門の
存在意義となる。

9

- 築山 暁仁
- 津福 泰男
- 伊藤 奈津子
- 有井 宏敏
- 野本 聡
- 岩岡 隆介
- 黒澤 規央
- 高野 晋治
- 熊谷 卓也

10